



- P.2 特集 いい夫婦の物語
P.3 スタッフのセクション！
「昭和史」「昭和史・戦後編」
P.4 人物ブックマーク 「北条政子」
P.4 視聴覚資料の森 CD「あきれたぼういずアンソロジー」
P.4 江戸川まいにんぐ 「葛西海岸堤防」

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library>

館長の紙BLOG 2009年11月1日

ペットの魔法

10月は小学生がチャレンジ・ザ・ドリーム(職場体験実習)にやってきて、大きめのエプロンがずり落ちそうになりながらもとてもよく働いてくれました。11月からは中学生のチャレンジ・ザ・ドリームが佳境に入ります。

大人の階段を登りはじめた世代の感性はみずみずしく、それだからこそどう生きるかたじろぐときもあるでしょう。そんなときそっと手助けできる本をヤングアダルト(YA)コーナーで紹介しています。

YAコーナーのアレンジに余念がない担当さんの意気を感じ、わたくしもYA本を読んで書評(読書感想文ですね)を寄せることにしました。

日頃の読書傾向と違う本さがしをしたいへんでしたが、ベストセラー「ハラスのいた日々」の低年齢向けライト作品、「ハラスよ!! ありがとう」(J916ナ)に手が止まりました。柴犬「ハラス」とともに生活し、その一生を見届けた飼い主が、ハラスへの感謝を込めた追憶記です。

飼い主とはドイツ文学研究者で作家の中野孝次氏。

「わが体験的教育論」や「麦熟る日に」などの著作は学

究としての厳しさに満ち、読むうちにはからずも背骨がしゃんとしてきた覚えがあります。

しかるに、です。ハラスを抱き寄せて晩酌するとき氏の謹厳実直はとろとろに溶け去り、駆け寄ってくるハラスと目が合ったとき氏の四角四面は瞬時にしてカドがぼろぼろと落ちてしまうのです。この変幻こそペットの、なかでも犬がかかる魔法であることは、わたくしもそうですが、犬を飼ったことのある人ならわかるでしょう。

現在の我が家のペットは、小学生の息子が毎日親水緑道で「狩猟・漁撈活動」に勤しんだ結果、爬虫類から軟体動物までそろった10種類を超える動物です。親水緑道の生物多様性おそるべし。冷血動物のくせにけっこう飼い主に甘えて忠義を立ててくれるのがかわいいです。

書評をはやく仕上げなければなりません。ところが我が家のペットたちには活餌しか受け付けない矜持の持ち主もいるので、「生鮮食材」の捕獲で時間をとられています。

YA担当さん、館長はペットの魔法とYA本で、ひょっとするとみずみずしい感性をいくぶん取り戻して、それから書けくつものなので、しばし待ってくださいね。

お知らせ & イベント情報

しのぎヤングアダルト通信 が創刊しました。

ヤングアダルト(=YA)の本って、中高生向きでは?いいえ。中高生はもちろん、大人の方にも知る、学ぶ、遊ぶ、感動するといった様々な出会いがあります。

YAの本棚の情報を伝えるメディアが「しのぎヤングアダルト通信」です。YAコーナーの特集展示の紹介、スタッフおすすめの図書、新着図書リストなどの情報を発信していきます。



第8回 大人のための映画会/ライブラシネマ篠崎 はつかねずみ

「廿日鼠と人間」

〈OF MICE AND MEN〉(1939年 米作品)

監督:ルイス・マイルストン

出演:ロン・チャニー・ジュニア バージェス・メレディスほか

12月12日(土) 14:00~16:00 (開場:13:30)

場所:篠崎文化プラザ講義室

定員:70名(当日受付、先着順)

どなたでも参加できます。

入場料:無料

お問合せ:篠崎図書館 (03-3670-9102)まで

いい夫婦の物語

11月22日は“いい夫婦の日”です。日本中のご夫婦が、お互いを見つめ合い、絆を深めるすてきな一日を過ごして欲しい…そんな思いから生まれた“いい夫婦の日”。普段はなかなか伝えられない「ありがとう」や「愛してる」。“いい夫婦の日”をきっかけに、そんな想いのつまった本を、大切な人を想いながら読んでみてはいかがでしょうか。本に綴られたそれぞれの夫婦のあり方を知り、いっそうすてきな関係を築いていただきたいと思います。

『東京日和』 荒木陽子・荒木経惟著

筑摩書房 請求記号:V748ア 所蔵館:中央

前半は、「思想の科学」という雑誌に連載された、妻・陽子さんのエッセイ。夫・アラーキーと一緒に、東京を天気の良い日に散歩したり、食べ歩きをして、そのときに起こった出来事や心に感じたことが語られます。文章からもアラーキーの写真からも、楽しそうな夫婦の雰囲気が伝わってきます。しかし、この連載は、わずか3回で終わってしまいます。

後半は、妻亡き後のアラーキーの直筆の日記と、根岸・根津・谷中の昔ながらを撮影した写真とともに、妻の写真が挿入されています。そこには、人生のパートナーにして、写真人生をともに過ごした妻に捧げられた「愛」が溢れ、やがてアラーキーは、写真家として新たな一步を踏み出します。ぜひ、作品から感じ取ってみてください。

『愛妻記』 新藤兼人著

岩波書店 請求記号:V778.2オほか 所蔵館:中央ほか

妻は、癌の手術を受けますが、医師からは余命一年半を告げられます。夫は妻には告げず、妻にとって最後の映画制作を決意します。「午後の遺言状」の撮影過程を追いながら、ふたりの出会いから40数年、夫婦の回想やその時々のお互いを敬い、慈しむ想いに溢れ、夫婦の「情愛」を感じずにはられません。

誰もがいつかは老い、死に向かいます。しかし、死が迫るなか、老いてなお若いときと変わらず、「愛する」ということを、このふたりは教えてくれます。

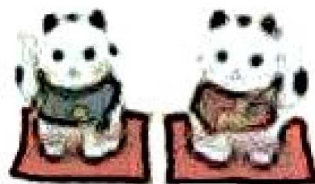


『風鈴』（小説日本婦道記 所収） 山本周五郎著

新潮社 請求記号:BFヤほか 所蔵館:篠崎ほか

妻の側の話です。3人姉妹の長女・弥生は、両親を亡くしてから立派に2人の妹を育て、恵まれた結婚をさせますが、裕福な家庭に嫁いだ2人に比べ、贅沢も旅行もせず、ひたすら夫に仕え子を育て、その月その年の家計をいかにやりくりするか、ということに身も心も疲れさせ、やがてむなしく老いてゆくだろう、という今の生活に生きがいを見出せずにいます。このまま一生を終えてしまってもよいのか、と思い悩むところに、妹の口利きにより、夫・三右衛門に出世の話を持ち上がります。そこで三右衛門の出した答えとは…。果たして今の自分は、その家にとって、夫にとって、子どもに

とってかけがえのない、大切な存在だろうか？病気をしたり死ぬことで、このうえなく嘆かれ悲しまれる存在だろうか…？現代ではあまりにも美談に過ぎるかもしれませんが、人間にとって“本当に大切なもの”“生きがい”とは、この話の夫・三右衛門のラストの言葉にあるように思うのです。



『並木河岸』（おさん 所収） 山本周五郎著

新潮社 請求記号:BFヤほか 所蔵館:篠崎ほか

「もうあたしたち、だめなのかしら——」

どんな夫婦にも一度は訪れるのかもしれない、夫と妻のすれ違いを描いた作品です。銀次とおていの夫婦の場合は、誰のせいでもない、三度目の流産がきっかけでした。初めてや二回目のときは優しく妻を慰めた銀次も、妻を嫌いになった訳ではないのですが、どうしてもやりきれず、繰り返される重たい日常生活のなか、二人の心は離れていってしまいます。そんな折、ふと入った居酒屋で、銀次は、彼は覚えていないが、幼馴染だと言う店の女中、お梶と出会い、彼女と話すことに心の安らぎを覚えていくのですが…。ラストでは、失いかけていた妻への想いを銀次は思い出します。それは、誰にだって覚えのある、結婚した男女にはごくありきたりなことだったのですが、はたしてそれがなんであったのか、そして夫・銀次がとった道は…。ぜひご自分でお確かめ下さい。

『功名が辻』 司馬遼太郎著

文藝春秋 請求記号:BFシほか 所蔵館:篠崎ほか

凡庸ながら律儀者の夫・山内一豊と利発で聡明な妻・千代の物語です。一豊の妻といえば、嫁入りの持参金で一豊の欲しがった名馬を購入し、出世の足掛かりとした話が有名で、「内助の功」の手本とされてきました。この作品では「夫の操縦が巧みで活動的な女性」として描かれています。千代は「自惚れという肥料だけが、才気のある男をのぼす道だ」という考えのもと、夫より前にでないように注意しながら、緻密な計算で操縦していきます。千代流の「夫啓発術」が随所に盛り込まれています。一豊はそれに気付きつつも、千代のために奮闘し、二人の夢である一国一城のあるじとなります。この作品は、千代と一豊がすれちがいもあるけれど、お互いを尊重し、認め合いながら成長していく夫婦物語です。時代小説ですが、とても読みやすいので、どちらかというと女性(妻)に読んで欲しい作品です。

『定年後、夫婦で楽しく生きるコツ』 南和子著

大和書房 請求記号:367ミ 所蔵館:葛西ほか

「夫が定年後、一日中家に居るのは気が重い。」

そんなことはありません。暮らし方を見直し、工夫することで楽しく、充実した毎日が過ごせます。我慢は禁物！言葉や態度で素直な気持ちを伝えましょう。やさしい言葉はやさしい心を育てます。友人とのつきあい、子供や孫との関係、さらに予想もしない病気や死に直面しても、「夫婦で支え合う」ことで、穏やかで明るい生活を送ることが出来ます。「やっぱりあなたがいてくれて、ありがとう」という気持ちになります。

『さらさら』 加納朋子著

幻冬舎 請求記号:BFカほか 所蔵館:篠崎ほか

厳密にいうと、この物語は夫婦の物語ではないのかもしれませんが。なにせ、始まって数ページで、夫は、妻・サヤと生後間もない赤ちゃん・ユウ坊を残し、事故で死んでしまうのですから。ただ、今、自分が死んでしまったら、残された家族はどう思うだろう、そして、死んだ自分はきっと心配で安心して「死んでいられない」に違いない…そう思える方には、かなりオススメなお話です。この夫も、お人好しで気が弱く泣き虫な妻が心配で、幽霊になって見守っているのですから。

とはいえ、心温まるストーリーを書かせたらピカイチの著者・加納朋子の描く作品ですから、お説教もしみじみもドロドロも苦手な方もご安心を。あきれるくらい、限りなく優しいお話です。

幽霊の夫の助けを借りつつ、少しずつ強く成長してゆくサヤ。それを見届けた最後の一章は、サヨナラをする夫の独白ですが、「相手を思いやる」という、夫婦の間でも大切なものがぎゅぎゅ詰まっている気がします。ぜひ、存分に優しい気持ちになってください。

『芝浜』(落語演目)

立川談志独り会落語CD全集 第5集ほか

請求記号:K7/タ-00682ほか 所蔵館:篠崎ほか

酒ばかり飲んで怠惰な生活を送る男が、ある日大金の入った財布を拾ってくる。喜んで寝入った隙に、妻は財布を隠してしまう。その後、起きた夫にそれは夢であったと一芝居を打つ。夫は自分の見た夢を恥じ、まじめに働くようになるという噺です。

貧しい生活のため夫の尻を叩く妻が、後半一転してしおらしく、財布を隠していたことを夫に謝るという対比がおもしろいです。笑い噺ではなく人情噺ですが、最後のサゲは絶妙です。性根までは腐っていない夫と、その手綱を持つ妻。夫婦で聴いてもらいたい「いいはなし」です。



スタッフのセレクション！ 第9回

半藤一利「昭和史」「昭和史 戦後編」

平凡社 請求記号:217ハほか 所蔵館:篠崎ほか

学校で習う歴史の授業は、三学期の終わりごろ先生の、「第二次世界大戦から後の時代は、時間がないので授業ではやりません。各自教科書を読んでおくように」というセリフで終わってはいなかっただろうか。それもあってか、昭和の歴史の人気は、信長、龍馬の時代ほど高くないように思う。だが、私たちの現代と未来を考える上で、昭和史を知ることは欠かすことができない。ところが、手軽に昭和史を概観できる書籍は意外に見当たらない。その点で、半藤一利氏の「昭和史」は、著者ができる限り客観的に歴史の流れを整理して提供してくれる、格好の「大人の教科書」といえるだろう。例えば、誰が最初に議会で統帥権干犯問題を言い立てたか。意外や政府や軍ではないのである。東京裁判に対する連合国各国の思惑はどうであったか。などなど、ぼんやりと知っているつもりでいたことが、再確認できる。

本書で半藤氏は、歴史を知る意義について、将来に備えて反省の材料を得るために、正しく歴史を理解することが重要、という意味のことを記している。

篠崎図書館で働くスタッフがほとんど個人的趣味で選んだおすすめ本を紹介します。今号は、Nさんが選んだ歴史書です。

そのためには、現代の視点で過去を断罪したり賞賛したりするのではなく、過去の視点に立った理解も必須である。さらに半藤氏は、当時の社会の風潮や背景にまで肉薄し、「語り部」としての役割をよく果たしている。もちろん、半藤氏にも誤解や先入観があることは、氏自身も認めているところだが―。その上で半藤氏は自身の、「40年史観」を提示している。日露戦争勝利後40年で第二次大戦に敗戦、戦後独立して40年後にバブル崩壊といった、一種の周期説である。

ただし半藤氏は、現代の状況に触れてこうも言っている。「今われわれは豊富すぎる情報で、現在を把握していると思っている、でも、それはそう思い込んでいるだけで、時代の裏側には、何かもっと恐ろしい大きなものが動いている、歴史とはそういう不気味さを秘めている」と。

その不気味さの中に、私たちはいるのだろうか。



人物ブックマーク

人物ブックマークとは歴史上の人物を紹介し、一緒に関連本を紹介するコーナーです。

第六葉 北条政子

鎌倉幕府を開いた源頼朝の正室である。頼朝とはいいい夫婦だったかどうかは定かではないが、政子は政治力があつたので公私ともに頼朝を支えていたようだ。頼朝死後は政子が、父・弟とともに鎌倉幕府を主導していたが、政権がなかなか安定しなかった。

そして、鎌倉幕府存亡の危機が起きる。後鳥羽上皇が鎌倉幕府(北条氏)追討のため挙兵したのである(承久の乱)。この時政子は、動揺する御家人に対し「皆心を一にして奉る可し、是最期の詞なり、故右大將軍朝敵を征罰

北条政子関連本

「尼將軍 北条政子」 童門冬二 PHP研究所 請求記号:B289ホ 所蔵館:篠崎ほか
尼將軍と称された北条政子の波乱の人生を現代的な視座から追いかけた歴史読み物。

して、関東を草創してより以降、官位と云い、俸禄と云い、其の恩既に山岳より高く、溟渤より深し、報謝の志浅からんや、而るに今逆臣の讒に依りて、非議の論旨を下さる、名を惜しむの族は、早く秀康・胤義等を討ち取り、三代將軍の遺跡を全うす可し、但し院中に参らんと欲する者は、只今申しきる可し」という演説をした。これを受けた御家人は感激し、上皇の軍を撃退した。こうして鎌倉幕府を守った政子は、この乱の4年後に69年の生涯を終えた。

小学校の社会科の授業で、私はこの政子の演説と出会い、御家人たちと同じように感激し、歴史にのめり込むようになった。その後の私の歴史好き人生を決定づける大切な一文である。
(by びしゃもん)



視聴覚資料の森

CD「あきれたぼういずアンソロジー」

あきれたぼういず

請求記号:K7/3931 所蔵館:小岩

昭和12年に川田義雄(晴久)―美空ひばりが生涯を通じて、唯一師匠と呼んだ御仁だーを中心に結成された伝説的ギャグ・バンド「あきれたぼういず」をご存知だろうか。とは言ったものの、果たして彼らのスゴさをここでお伝えすることができるのか・甚だ自信がないのだが、とにかく見事な、気合の入ったフザケ散らしっぷりなのだ。基本は、意表をつく構成で、次々と連なるスピーディーなショートギャグなのだが、古今東西の音楽&演芸、たとえば浪曲や謡曲からジャズ、オペラ、シャンソン、ポパイやドナルドダックのものまね、ギ

ターやオカリナなど洋楽器と変な声総動員の邦楽演奏などが全く脈絡なくハチャメチャに飛び出してくるのだ。しかもその無意味な一つ一つが、あきれるほどに高レベルときている。軍事色が濃いこの時代に、軍歌を歌うふりをして、いつのまにか→風邪をひいたガマガエルの声→ポパイの意味不明なせりふ→鶏の声で「椿姫」の「乾杯の歌」→粋なギター浪曲→軍歌→マラカスで「津軽よされ節」etcの展開は相当カッコいい。必聴です。(by うわの空 虹子)

江戸川まいにんぐ 発掘 第9回 葛西海岸堤防

「区内路上観察」で遭遇した、けっこうレアで、それでいてけっこう役立ちそう、な情報を毎回お届けしています。

篠崎図書館とひとつ屋根の下の「江戸川総合人生大学」で、多田区長が講師をつとめられるスペシャルな講義「えどがわ入門」がありました。

低地だらけの江戸川区をどうやって高潮から守ってきたか、行政の視点からのメリハリのついたお話でした。

1957年に完成した、延長4.4キロメートルにも及ぶ「葛西海岸堤防」は、沖を埋め立てるまで、まさに水際の守護神でした。今は役目を終えたその堤防の現在はどうなっているのか？歩いてたしかめてきました。

海岸堤防のヘソだったのは「海岸水門」。左近川の河口に位置し、陸側から集まる水を海側にうまく調節して流していました。水門は昔のままですが堤防は撤去され、海は閉じられて「新左近川親水公園」として美しく整備されています。

かつて万里の長城のように延びていた壁は、清砂大橋通りと地下鉄東西線がまじわるポイントに記念物としてごくごくわずかに残されています。高潮の体当たり仁王立ちで耐えた堤防は、区民にとって五つ星レベルに相当する大事な産業遺産ではないでしょうか。(by M)

